

【夏休みイベントレポート】

子どもたちが酷暑日に挑む！

夏休み特別講座「こども建築塾」に延べ 270 名が参加！ “明るさを確保しながら室温上昇をおさえる” 快適な環境づくりについて実験しました

株式会社類設計室（東京本社：東京都大田区蒲田 5－38－3 代表取締役社長：岩井裕介）は、2026 年 7 月 28 日（火）～30 日（木）の 3 日間、小学 4 年生～高校 3 年生を対象に一級建築士から建築の世界を学ぶ「こども建築塾」を東京本社 3 階「Soil」にて開催しました。



■開催結果：全日程満員御礼！3 日間の延べ参加人数 270 名！

本イベントでは、全日程満員御礼となりました。3 日間のイベント開催となりましたが、延べ人数 270 名のお子さまに参加いただきました。

■開催の背景

近年、日本各地で猛暑が続き、2026 年 4 月から「酷暑日」が正式な予報用語として制定されるなど、暑さへの対策が大きな社会課題となっています。総務省消防庁の調査によると、2025 年（5～9 月）の熱中症による救急搬送は全国 10 万 510 人と調査開始以最多。発生場所では「住居」が 3 万 8292 人（38.1%）で最多となって

います。(※1)そこで本講座では、建築が持つ暑さ対策の工夫を一級建築士と学び、粘土やアルミホイルなどを使って、素材による熱の伝わり方の違いを実験しながら、「熱中症にならない家」づくりに挑戦します。人工的に強い日差しを作り出す太陽光再現装置を使って、「屋根にはどんな素材を使えば日差しが防げる?」「窓にはどんな素材を使えば風を取り込める?」などを検証していきます。子どもたちの自由な発想と建築士の知見を掛け合わせ、「酷暑日」という社会課題に向き合います。そのほか、東京本社の見学や、一級建築士から学ぶスケッチ体験も実施します。

※1 総務省消防庁「令和7年(5月～9月)の熱中症による救急搬送状況」から

https://www.fdma.go.jp/disaster/heatstroke/items/r7/heatstroke_nenpou_r7.pdf

■開催概要

- ・日程：7月28日(火)・29日(水)・30日(木)【3日間】
- ・対象：小学4年生～高校3年生
- ・時間：午前の部：10:00～12:30／午後の部：14:00～16:30※同じ内容を2部制で開催
- ・内容
 - 1日目：広い空間を作ろう&東京事務所見学ツアー
 - 2日目：熱中症にならない建物を作ろう！
 - 3日目：プロからスケッチを学ぼう！
- ・定員：各回45名
- ・料金：3日間参加25000円(1日参加9000円)
- ・開催場所：類設計室東京本社3階「Soil」

【7/29 実験テーマ】明るさを確保しながら室温上昇を抑える快適な環境をつくろう

15cm×15cm×15cmのフレーム模型をベースに屋根や壁を取り付け環境に配慮した住宅模型を作成していきます。必須条件として、専用装置を用いて光を取り込み、日当たりの良い居間を想定した室内照度1000Lx(※)以上を確保すること。そして、4分間光を当て続けた状態で、最も室内温度の変化が小さいチームが優勝。

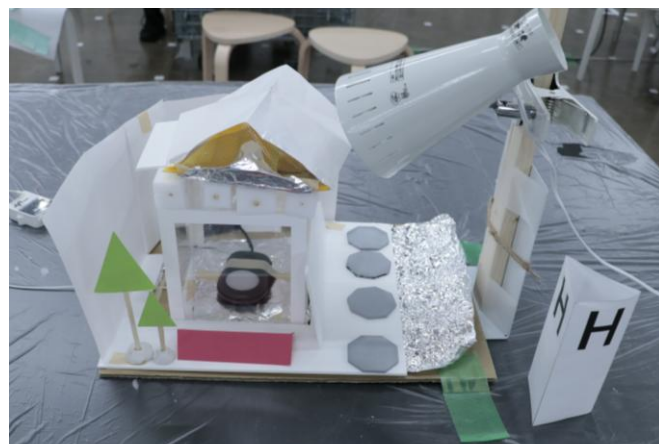
※Lx(ルクス)・・・明るさの単位。

実験を終えた子どもたちの声

- ・光がちょうど良くても温度が上昇してしまうなど、バランスを取るのがとても難しい。
- ・難しかったことが、少し材料を動かすだけで光が入る量が変わってしまうこと。もっと他の材料を使って温度を下げていきたい。
- ・建物に断熱材を増やしたのに、最初より最後の方が温度上昇してしまったことが気になった。実際の家での断熱方法が気になった。
- ・チームの仲間と協力することが大事だと思った。家でも模型をたくさん作りたい。実験では2位を取れたのが嬉しかった。



みんなで実験中の様子



もっとも温度上昇を抑えたチームの作品

こども建築塾おなじみの「スケッチ回」も実施

これまで、「長野オリンピックスタジアム」や「本の森ちゅうおう」のデザインを担当した、弊社設計事業部の佐藤賢志（以下、佐藤）をメイン講師に迎えました。こども建築塾ではおなじみとなっているスケッチ回を実施。「ワクワク」や「怒り」を線で表すアイスブレイクからスタートし、二点透視図法※の実演・レクチャー、そして終盤には「Soil」（弊社の3階工房・こども建築塾の会場）を自分たちならどんな空間にしていきたいかのアイデアをスケッチしました。

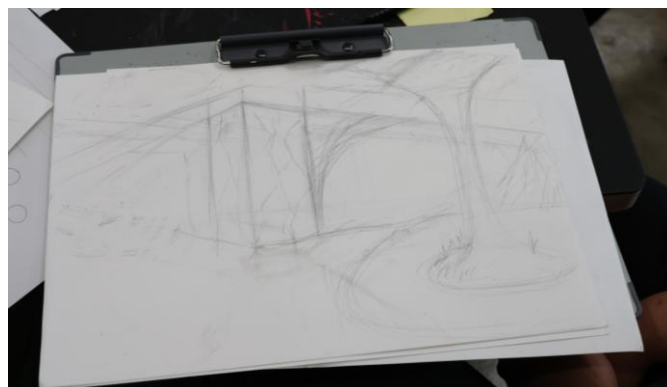
※二点透視図法・・・水平線上に2つの消失点を置き、物体を斜めから見たときの遠近法をリアルに表現する描法。



参加者から寄せられたアイデアからスケッチの実演



室内に滝が流れるデザイン



大きな木が植えられているデザイン

佐藤は「スケッチは『建物を作る時の第一歩』であり、周りと共有して楽しむ、反応をもらって楽しむことが大切であり、誰でも上手になれる。君たちの可能性は無限大だ。」と参加者たちにメッセージをおくりました。

「こども建築塾」のこれまでの実績

弊社教育事業部しごと学舎が運営する「こども建築塾」は、子どもたちが現場の最前線で活躍する設計士から直接学ぶことができる講座となっています。2023 年から開講し今年の 9 月で 3 周年を迎え、2026 年には東京に定期講座が開講しました。

約 3700 名が大阪のこども建築塾へ参加、満足度 90%以上を維持しています

模型作りや弊社が手掛けた物件の見学、スケッチ講座など一級建築士から直接学べるカリキュラムを実施しています。

東京こども建築塾は 2026 年 4 月に定期講座が**定員充足でスタート**しました！

東京で実施したこども建築塾の特別授業では、これまでの参加者累計 300 名以上。イベント満足度は 97% と高い評価をいただいています。



2025 年 7 月東京 3days
ダイジェスト動画あり



しごと学舎ホームページ : <https://shigoto.rui.ne.jp/>

類設計室が手掛けた物件を一部紹介

主催の株式会社類設計室は 1972 年創業。祖業である設計事業部は数多くの中大規模建築の設計を手掛け、教育施設・文教施設・企業研究施設など多くの実績を誇ります（下記例）。

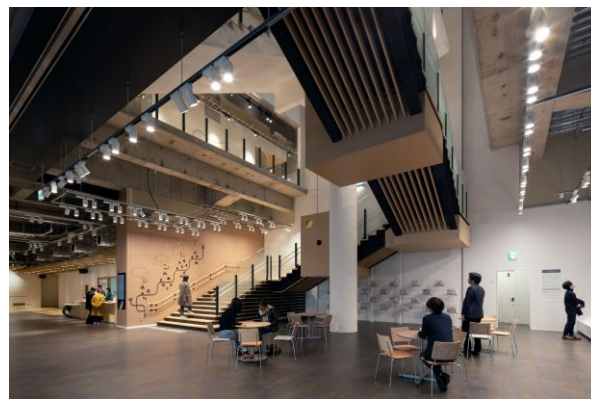
【中央区立図書館 郷土資料館「本の森 ちゅうおう」】（2023 年度グッドデザイン賞、第 23 回緑化技術コンクール 国土交通大臣賞（緑化施設部門））

【中央区立晴海地域交流センター「はるみらい」】

また大阪本社では教育事業「類塾プラス」を 50 年にわたり運営し、これまでに 15 万人の卒塾生を社会に送り出しています。また、「こども起業塾」でのキャリア教育アワード受賞をはじめ、こどもたちが実社会とつながる学びを評価していただいています。つまり、設計事業と教育事業を追求し展開し続けてきた、最前線で活躍する現役の一級建築士と教育のプロたちがいる企業です。“頭と心で学ぶ”、本格的なプログラムでこれからの未来を担う人材を育てます。



中央区立図書館「本の森 ちゅうおう」写真：小松正樹



中央区立晴海地域交流センター「はるみらい」写真：小島康敬

会社概要

活力ある社会をめざして、株式会社類設計室（読み：るいせつけいしつ）は、21 世紀を牽引するお客様の戦略パートナーとして活力あふれる空間を設計しています。さらに「社会の活力を生み出す」という視点から、新しい教育・農業にも取り組んでいます。

<会社概要>

ミッション : 活力ある社会を設計する
会社名 : 株式会社 類設計室
設立 : 1972 年

代表取締役社長：岩井 裕介

所在地 : 大阪府大阪市淀川区西中島 4-3-2 類ビル（大阪本社）
: 東京都大田区蒲田 5-38-3 蒲田朝日ビル（東京本社）

事業内容 : 設計事業部 類設計室、営繕事業部、教育事業部「類塾プラス」「類学舎」「自然学舎」「しごと学舎」、農園事業部 類農園、地域共創事業部 類宅配の 5 業態を展開しています。

URL : <https://www.rui.ne.jp/>